

歴史（西洋史）〈H01B〉

配当年次	全学年
授業科目単位数	4
科目試験出題者	唐橋 文・石橋 悠人
文責(課題設題者)	唐橋 文・石橋 悠人
教科書	指定 服部 良久・南川 高志 他『大学で学ぶ西洋史 古代・中世』[初版]以降 (ミネルヴァ書房) 指定 小山 哲・上垣 豊 他『大学で学ぶ西洋史 近現代』[初版]以降 (ミネルヴァ書房)

*2冊で1科目分

《授業の目的・到達目標》

法学部の専門科目を履修するうえで、西洋史の知識が必須であることは、あらためて申すまでもないことかもしれません。ごく簡単に申せば、近代における「法の前の平等」と「人権」、さらに議会制民主主義は、すべて西洋の歴史のなかで誕生し、そうして1492年以降の西洋の世界支配のなかで、非西洋世界にも移植され、内実はどうであれ「世界基準」となったからです。

この科目のテキストは、古代から現代にいたる西洋の歴史を概括するもので、大学生向け、初学者向けの西洋史概説書としては、十分な内容を誇っています。

レポートに関連する章をまずはじっくり読んでみてください。さらに、折をみて全体を読み通してみてください。そうすれば、西洋史の基本的な流れがおのずから頭に入ってくるはずです。そこで獲得された西洋史の知識は、専門科目の学習に役立つばかりではなく、豊かな「教養」の基礎にもなるはずです。

《授業の概要》

日本人として、遠い西洋の歴史を勉強することには、どのような意味があるのでしょうか。まず、歴史学とは、過去について散在するもろもろの史実を探し出し、整理し、系統づけて過去の世界のありようを再構成し、さらに疑問を提出して次の思索を促そうとする、スリリングで知的な作業です。

私たちが、ごく当たり前のことのように口にする、「人権」、「自由」、「法の前の平等」、「法の支配」、「契約」、「民主主義」などは、すべて西洋を起源とするものであり、その生成には血と汗と涙の歴史がありました。したがって、法律学を本当の意味で体得するためには、西洋史の知識は必要不可欠なのです。

また、西洋と一口に言っても、そこには数多くの民族や文化がせめぎ合いつつ存在しています。文学でもいい、美術でもいい、あるいは建築でもいい、目も眩むばかりの文化的遺産が入り乱れているのです。その一部はすでに、私たち日本人にも消化されて骨肉となっていますが、まだまだ知られざる文化は山のように残っています。私たちが知っているのは、そのほんの一部だといってもけっして過言ではありません。

《学習指導》

この科目の履修には、高校段階の世界史の知識を必要とします。その点で「心もとない」受講生には、『もういちど読む山川世界史』（山川出版社）がお勧めです。ネットで簡単に購入できるはずです。あたら

れた課題について、まず、この『もういちど…』でその概要、および前後の歴史の文脈を読みとり、そのうえで教科書に進むとよいでしょう。

《成績評価》

試験（科目試験またはスクーリング試験）により最終評価する。

歴史（西洋史）〈H01B〉

◎課題文の記入：不要（課題記入欄に「課題文不要のため省略しました。」と記入すること）

◎字数制限：1 課題あたり 2,000 字程度（作成基準のとおり）

第1 課題

古代メソポタミアの法集や裁判制度について、近現代との違いに注目しながら、具体例をあげて説明しなさい。

第2 課題

中世ヨーロッパにおける宗教と政治の関わり合いについて、具体例をあげて説明しなさい。

第3 課題

18 世紀イギリスにおける産業革命の進展が、社会・経済にいかなる影響をおよぼしたかを説明しなさい。

第4 課題

19 世紀のイギリス帝国と移民の関係について、具体例を挙げながら総合的に論じなさい。

〈推薦図書〉

第1～2 課題

中田 一郎	『メソポタミア文明入門』（2007 年）デジタル版 ※電子書籍のみ取り扱い。	岩波ジュニア新書
大貫 良夫・前川和也 他	『世界の歴史 1 人類の起源と古代オリエント』（2009 年）	中公文庫
堀越 孝一	『中世ヨーロッパの歴史』（2006 年）	講談社学術文庫
佐藤 彰一・池上 俊一	『世界の歴史 10 西ヨーロッパ世界の形成』（2008 年）	中公文庫

第3～4 課題

長谷川 貴彦	『産業革命』（2012 年）	山川出版社
R・C・アレン・眞嶋 史叙 他（訳）	『世界史の中の産業革命』（2017 年）	名古屋大学出版会
川北 稔	『イギリス近代史講義』（2010 年）	講談社現代新書